

みんながエンパワメントされる

家族支援

家族支援は、訪問看護の二丁目一番地です。療養者とともに送る生活の中、家族もさまざまな決断をしていく必要があります。訪問看護はその総意を固めるプロセスへと関わることになります。

とはいえ、決して簡単なものではありません。病気や障害との暮らしには、療養者も家族も戸惑います。これまでマスクされていた家族の課題が浮き上がり、家族の関係性に緊張感が帯びる場面もあるでしょう。ときに訪問看護は、そうしたところにも分け入っていかねばなりません。

本特集では、そんな訪問看護にとってきわめて重要な家族支援をあらためて考えました。

現代の日本は、すでに一定の「家族」像が描けなくなっています。社会環境にも影響を受ける「家族」は今どのような状況に置かれているのか、支援者は「家族」をどう捉え、関わっていけばよいのかから説き起こします。

さらに、行き詰まりを覚えるケースを解決に導く方法論として、渡辺式家族アセスメント／支援モデル（以下、渡辺式）を紹介します。渡辺式の実装により、療養者も家族も、そして支援者もエンパワメントされ、状況が開けることが分かるはずです。

行き詰まったときこそ、
渡辺式家族アセスメント／
支援モデル